

司会：John Bond

世界は今、ロシアの残虐性に立ち上がることを拒否している。ここ英国でも汚職にまみれたロシアの通貨を歓迎してしまっている。今、私たちは勇気を持って悪いことは悪いと言えるでしょうか。私たちは、今非常に難しい問題を自問自答しなければならない時に来ています。この事で私が思い出したのは 1938 年、当時の英国首相が言った言葉です。「我々は遠く離れた、会ったこともない人たち同志の喧嘩のために塹壕を掘り、ガスマスクを準備しているとは、全く信じられないことだ。」と言った事です。今ウクライナのマリウポルの町が爆撃されているようにシリアが爆撃された時も英国の態度はこうだったのでしょうか？

皆さん、今日のご参加有難うございます。今日はこの問題でそれぞれの考えを発言して頂きます。先ず初めにウクライナ MRA の secretary(事務局長)、Foundation of Freedom の議長であられるソフィア・スディランコさんです。

ソフィア（ウクライナ）：

私はウクライナの最も西に位置する町出身で比較的安全な町。しかしこの安全という言葉も今は油断ならない。今日この席に私が居られるのはウクライナ軍隊がロシアからの如何なる攻撃に対しても驚くほどの軍事能力で私たちを守ってくれている。私は「Foundation of Freedom」や、全ウクライナ人を代表して話しているのではない。母国を愛する一人の人間として、皆さんと考えをシェアしたい。ご存知のようにウクライナは 2 月 24 日ロシアからの全面戦争を受けた。しかし、この戦いは遠い昔から始まっていた。事実ウクライナは 400 前からあらゆる手段でロシアからの攻撃に悩まされ続けて来た。2014 年ウクライナの一部は「助けてあげる」というメッセージと共にロシアに占領された。私たちは助けられる筋合いは何もない。只、常時苦しめられるロシアからの「いやがらせ」だけは止めて欲しかった。このフォーラム開催で、私は国際社会と対話の糸口が出来たことに感謝。これで少しでもロシアとの対話が出来るとは嬉しい。また、ロシア人对ロシア人の対話が必要であることも強調したい。ウクライナ人はこの戦争に必ず勝つ。われわれが始めた戦争ではない。戦争に勝ちたいわけでもない。ウクライナが望むのはただ一つ。「我々の領土の自由」。誰の領土でもない、我々の領土だ。われわれの国民だ。こちらからスタートした戦いではないが、我々は必ず勝つ。しかし、ウクライナの勝利はロシアの軍隊がこの土地から出て行った時ではない。ウクライナの勝利とヨーロッパの勝利は、現在ロシアに確立されている「レジーム」を崩壊させる時。よく言われるのは、全てはプーチン一人が悪いと思われているがそうではない。「これは正しくない」と立ち上がって口を開かない全員が悪いのだ。すべてが 2 月 24 日に始まったのではない。何年も前から始まっていた。何か間違ったことが始まるたびに、人々は口を閉ざし「間違っている」と言わなかった。外に出て「反対」を唱えなかった。また、ロシア人で安全を求めて自分たちだけが国外へ出て行く人々も正しくない。これはレジームを支持することになる。彼らは立ち上がり、口を開かねばならない。それによって逮捕されるかもしれないが、ウクライナでは今この瞬間も（3 月 26 現在）何百人、何千人もが

命を絶たれた。私のパートナーも現在戦場に居る。毎朝起きるたびに彼が活着ているとの情報で安堵する。私も 30 歳。心配しながら朝を迎えるような暮らしは終わって欲しい。マリウポリには友達が居るが彼らはロシア軍に包圍されて外に出られない。彼らは地下で活着ているだろうか、水や食べ物はあるだろうかと心配しなければならないのは間違っている。われわれが今求めるのはウクライナ人だけの安全でなく、世界全体の安全だ。毎日テレビで見る危険は、世界の危険だ。ヨーロッパはただ近いというだけだ。それは、レジームを打倒することだ。レジーム打倒が実現するのは、人々が立ち上がり、外に出て、口を開く時だ。皆が外に向かって、「これは正しくない！」ということだ。ロシアにも反対を唱える人が居ることは有難い。今はロシアから外へ向かって口を開くときだ。恐ろしいがそうせねばならない。もし、このレジームが変わらなければ、我々は常時危険と隣り合わせだ。ウクライナだけでなく世界中で。ご清聴ありがとうございます。

次にモスクワの教師、エレナさん（ロシア人）、どうぞ。

まず、冒頭にウクライナからのサポート及び連帯に感謝。私は一人ではない、国には同じ気持ちを持つ人が大勢居る。しかし悲しいことに彼らは世界のコミュニティーと話をする機会がない。今回多くのロシア人を代表して彼らの声を表明できる貴重な機会を頂きありがとうございます。多くのロシア人は戦争に反対し、ウクライナの側に立っている。私の考えでは、ロシアは今、歴史の中でも最も暗黒の、恥ずべき時代にいる、と思う。ロシアは二つのグループに分かれており、その間のコミュニケーションは皆無と言ってよい。一つは南部にある恨みの社会で、もう一つはヨーロッパの価値観に基づいた協力的な社会である。何百万人の戦争に反対するロシア人は今、フラストレーションを感じ、短気、敗北感、荒廃感に満ちている。ソフィアの言うように多くのロシア人は既に国外へ逃れ、又多くがこれから逃れる準備をしているが、逃れる方法とメカニズムが分からない。しかも一旦逃れようとすると、ロシア軍に捕まり拷問を受け、長年の禁固刑を受ける。平和裏に抗議デモをすることが出来ない。ソ連邦の時代には旧共和国があった。スターリンの時代には、外部に影響を与えられる理にかなった抗議を起こすメカニズムがなかった。すぐに軍隊が出てくるし、悪政に立ち上がり、抗議を準備し組織化することもできなかった。人々のフラストレーションは溜まっても誰もこの過激な国と交渉しようとする人はいなかった。冷酷な国のマシーンを更に危険で攻撃的な軍隊にする手助けをした人はいた。これは事実である。われわれロシア人はその責任を感じていた。何かをしてこの状態を変えないといけなさと感じていた。かなりの人々が 2011 年、12 年、13 年、14 年にストリートに出て活動が始まり、レジームを打倒すべく行動が始まった。この絶望感、罪悪感が南部に集まり組織化するようになった。ここで私は諸悪の根源を強調したい。プーチンは今、民主的な価値と戦っている、それはウクライナの主要部との闘いだ。彼は民主主義こそ危険であり欠点だらけだと信じて居る。ヒエラルキーの外にいる底辺社会と民主主義が彼の主たる攻撃目標である。ロシアの権威者は冷酷で国内からも抵抗がある。ロシア内のヨーロッパ寄りの人々は敵であり、プーチン

の目から見れば、ウクライナ人と同様に存在する権利はない、と思っている。それ故これはロシア対ウクライナ戦争というだけでなく、ロシア社会対開かれた民主的ロシア社会との闘いである。一方西側の民主主義国家からロシアに対する制裁はロシアの軍事マシーンの弱体化を狙うもので更に制裁の圧力をかけなければならない。今、このレジームは劇的な改革を行わなかったら、単にウクライナだけでなく世界全体への脅威となる。ロシアは今、チェンジする必要がある。

次にコスティア・プラスキー氏（キーウ市、ポーランド・ウクライナ協会財団の副会長）。お招き有難う。あまり付け加えることはないが、この状態の中で初めて見えてきたことは多くの同胞ウクライナ人たちの素晴らしい側面です。私は戦火から逃れるために家族と共にキーウから西部へ長時間かけて避難した。ルーク川があるこの町には橋がほとんどなくその橋には多くの車が数珠つなぎとなり橋を越えるだけで数日かかる。そんな時地元の人々はお茶やコーヒーを家から持ってきて私たちに下さった。また、地元の魚を煮て作ったシンプルなスープをこの長い列の私たちに下さった。私は感動で泣いた。私たち都会の者は高価な車で移動し、これまでキーウで安楽に暮らしていた。素朴な村の人々は貴重な魚のスープを私たちに下さり、サポート頂きその温かい気持ちに、私は今まで感じたことのないほどの「連帯感」と unselfishness(無私の心)を感じた。夜になって小さな町を通り過ぎる時、地元の人々は自分たちのフラットで一夜を過ごすようにと宿を提供してくださった。ですから、人の情けの良い面をじかに触れることが出来、この暗い時代の光の当たる部分を感じることが出来た。ウクライナ人としての大切な「連帯感」を感じた。また、ウクライナ北部のチェルニーギリから、私の母は逃げ出す途中爆撃に遭い母は無事だったが、橋は壊された。地元の人たちは、fundraising(資金集め)のような大きなことは出来ないが、食事を分けてくれた。この人たちの親切に、暗い部分の中の光を見た。

(これは3月26日頃の状態です)

(英語音声からの和訳 中島信子)